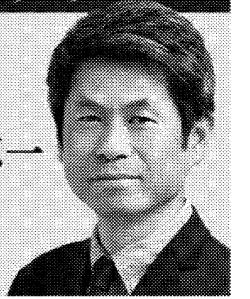


本社コメンテーター

村山 恵一



社会的インパクトを重視するスタートアップが増え始めた

ユニファ

手がける事業: テック活用による保育施設の効率化

めざす社会: 誰もが働きながら子育てしやすい

ライフイズテック

手がける事業: 中高生向けプログラミング教育

めざす社会: 子供がもつ可能性を最大限引き出す

インパクト投資で注目される上位10分野

1 食糧・農業	2 エネルギー	3 ヘルスケア
4 水・公衆衛生	5 インフラ	6 教育
7 住宅関連	8 金融	9 森林・林業
10 マイクロファイナンス		

(注)GIINの調査から作成。今後5年で資産配分を増やす投資家の割合が高い分野順に並べた

背景には世界的な「インパクト投資」の潮流がある。ここでのインパクトとは、社会にもたらすプラスの変化や影響を指す。投資家は経済的リターンだけでなく、社会課題を解く力を評価して資金を出す相手を決める。スタートアップにとっては、経営資源の獲得にかかわる新たなつねりだ。ユニファはどのようにしているか。誰もが働きながら子育てしやすい社

このスタートアップ企業で星氏は最高財務責任者（CFO）をつとめる。証券会社のころと違い、おとなしい世界に移った？ いや、むしろ金融のプロとしてより野心的な仕事を担う。それはユニファが社会に役立つ存在であると論理的に示し、資金調達や新規株式公開（IPO）につなげる。 「社会にいい」を語る相手は、自分の娘だけではないのだ。

外資系の証券会社に入り、東京ニューヨークで12年働き、大型M&A（合併・買収）にも携わった星直人氏。ワーカホリックだったが、子供が生まれて考え方が変わった。この生き方でいいのか。 「社会にとっていいことをしている。娘の目を見て、そう話せるようになりたい」。2019年、保育施設の業務を効率化するユニファ（東京・千代田）に転職した。保育士不足は深刻だ。子供の安全を守る責任が重いうえ、書類仕事もあって忙しい。それが離職を招いている。ユニファは睡眠中の事故を防ぐため子供の姿勢をセンサーで見守るシステムや、5秒で検温と記録ができる非接触の体温計などを供給する。

力注ぐのは、自社の事業が生む成果を客観的にまとめたインパクト報告書の作成だ。プログラミングを学んだ子供の意識にどんな前向きな変化があったか大学と組んで確認したり、学習後の活躍ぶりを調べたりする。投資家にとどめず、いずれ一般に公開する。手間はかかるが、「研究開発につながる」と水野雄介最高経営責任者（CEO）。報告書づくりを通じ、社会が求めるサービスのヒントが得られると考える。

「社会にいい会社」可視化を

社会課題に挑む起業家の象徴は長らくマイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏だったろう。慈善事業として医療や教育の難題に取り組んできた。巨万の富があるからといって「良きに計らえ」ではなく、寄付が有効に使われているか確かめる姿勢が新しかった。しかし、そういう社会的な役目

日本はこれからだ。インパクト投資残高は約3000億円にとどまり、世界水準に遠いとの声を聞く。だが社会課題に注目する起業家が増え、米セールスフォース・ドットコムが日本でインパクト投資を始めるといった動きもある。社会のためになる活動が可視化され、そこに資金が流れ、結果が検証される。そういうメカニズムが日本に必要な。少子化、地方の疲弊、デジタル化の遅れ……。抱える問題は多く、「日本のイーロン・マスク」にぜひ会いたい。

は営利を追う企業には不向きという「常識」ゆえか、マイクロソフトとは別組織の財団を設けた。時代は移り、象徴はイーロン・マスク氏に変わったように思える。気候変動対策を使命に掲げる会社、米テスラをCEOとして率い、電気自動車（EV）や太陽光発電の普及にアクセルを踏む。同社のインパクト報告書を見ればEVが消費するエネルギーやリサイクルする素材、工場で使う水などの情報が盛り込まれている。漠然と環境保護を唱えるだけでは「いい話」で終わりがねない。実績を明確に示せば、より多くのステークホルダーの理解や共感を得て、より大きな挑戦ができる。テスラの時価総額が自動車メーカーで最大となり、存在感が膨らんでいるのと無関係ではないはずだ。いま社会派スタートアップに追い風が吹く。IoTやビッグデータ解析が一般化し、事業がいかに社会を変えているか明示しやすくなっている。データや科学で世界を理解しようと説く「ファクトフルネス」「21世紀の啓蒙」などの本もベストセラーになった。事実に基づき意思決定し、行動する起業家にはいい環境に違いない。

グローバル・インパクト投資ネットワーク（GIIN）の調査によると、世界のインパクト投資の運用残高は19年末で推定7150億ドル（約78兆円）と前年比4割増えた。食糧やエネルギーなどの分野に投資家の関心が向いている。

会にするのが会社の目標。これと事業がどう結びつくのかロジックモデルと呼ぶ手法でわかりやすい図にして投資家に説明する。さらに、自社のテクノロジーで保育現場の業務時間がどの程度短縮できたか測定する。ウェアラブル機器で保育士の生体情報をとりストレスの低減効果も調べた。集めたデータは企業価値の判断材料として開示していくつもりだ。25年までに120万人の革新的な人材を育てることをめざし、中高生にプログラミングを教える会社ライフイズテック（同・港）。同社の石川孔明氏も新しいタイプのCFOといえる。